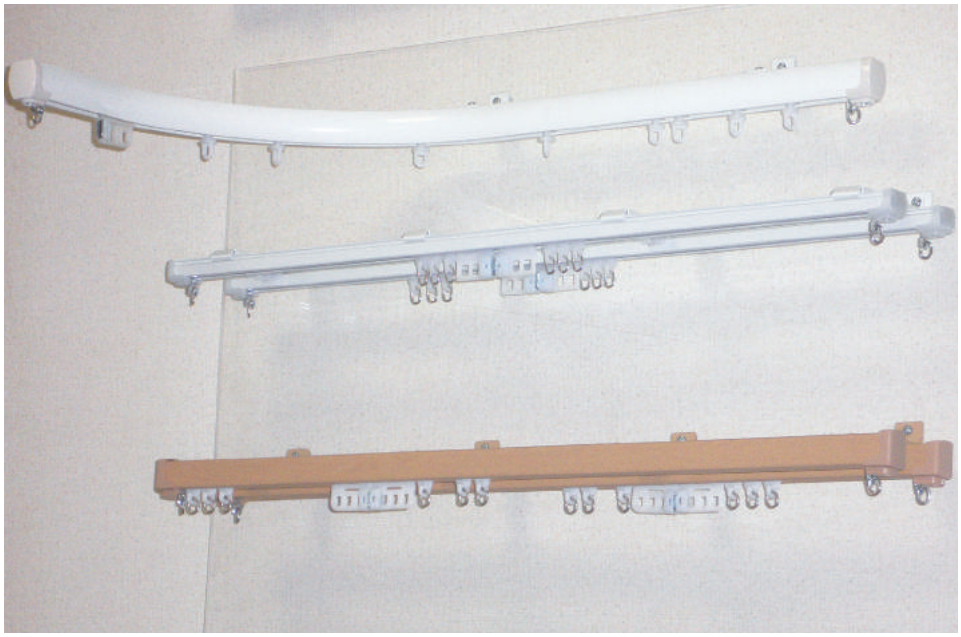
有限会社 橘金属製作所

カーテンレール専業の高品質ブランドを確立

コスト相談
メイドインジャパン
試作可小ロット
量産対応


カーテンレールは材質や形状で多種多様

業務内容 日本のモノづくり品質を前面に、自社で一貫生産

ステンレス、アルミ、塩ビ鋼板を材料にしたカーテンレールの製造販売を営む。ホームセンターなどで一般消費者向けに販売される格安カーテンレールとは異なり、主に住宅、マンション、オフィス等の新築物件向けの取引が中心。複数のロールが並び、ロールに材料を通すことにより成形加工するロールフォーミング成型を軸に、すべて自社工場で一貫生産している。メイドインジャパンにこだわる高い製造品質と圧倒的な短納期により、建材業界で「タチバナ・ブランド」を確立している。

専用仕様 軽量・高強度の材料を1社独占

一口にカーテンレールといっても、静音処理を施したもの、ブラケットを隠して見栄えをスッキリさせたもの、高級感のあるデザインを施したものなど、さまざまな製品開発の取り組みがある。なかでも商品力を大きく左右するのがレール材料。日鐵住金建材株式会社から軽量、高強度の塩化ビニル鋼材を仕入れているが、実はこれは橘金属の専用仕様。つまり橘金属以外、同じ材料を調達することはできない。材料段階から専業メーカーの強みを発揮していることになる。

強み ロール交換に独自の工夫、短納期実現で顧客の信頼獲得

カーテンレールは、新築物件の最終工程で取り付けられるケースが多い。しかも形状や寸法、材料など、基本的に1点ごとに異なるため、いかに短時間で製作し短納期化できるかがポイントになる。納期はまちまちだが、なかには〝明日までに！〟の特急注文もあるという。この短納期を実現するための工夫の一つが、ロールのカセット交換だ。カーテンレールの形状に合わせてロールを交換する必要があるが、これを一個ずつ交換するには非常に手間が掛かる。このため、あらかじめ複数のロールをカセットにまとめ、カセットごと交換する手法を採用。段取り変更時間を約半分にした。

今後の展望 ロール成形技術で新規市場開拓

高いロールフォーミング技術を生かし、カーテンレール以外の市場開拓に乗り出す。八尾市を中心としたモノづくりネットワークに参加。あくまでも工場（ファクトリー）に徹して日本のモノづくりをアピールしていく姿勢を貫く。

主力設備のロールフォーミング成型機

COMPANY PROFILE 有限会社橘金属製作所

大阪25

当社の歴史

昭和26年に山崎製作所としてカーテンレール部品の製造工場として創業。昭和34年にロールフォーミング機によるカーテンレールの製造販売を確立、（有）橘金属製作所に社名変更。平成3年、JIS表示許可工場、平成17年エコアクション21認証取得、平成20年JISA4802認証取得。ロールフォーミング技術を進化させ、多様なカーテンレールの製造を行う。

半世紀におよぶ伝統に
確かな技術が蓄積されている。

専務取締役 岡 敬人さん

■主な事業内容
住宅建材用・業務用および一般家庭用カーテンレールの製造・販売

■主な取引先（納入先）
建築金物メーカー、建築金物商社

住　所／〒581-0039
八尾市太田新町7-81
ＴＥＬ／072-949-4565
ＦＡＸ／072-949-0874
創　業／昭和26年8月
設　立／昭和34年6月
資本金／300万円
従業員／17名

http://www.yao-mono.jp/s_pr/?pkId=102376